平成３０年度 MieMu の活動と運営の全体の内部評価の概要
計画期間（３年）: 平成２９年度～平成３１年度

内部評価結果（概要）

・三重の自然と歴史・文化をテーマに展覧会を計 5 本（企画展・交流展）開催した。広報では、きめ細かい発信を行った結果、報道数や県内の知名度（80%）などが目標を達成したが、観覧者数・利用者数・利用学校数は達成できなかった。特に、基本展示は年々減少し、開館年度（H26）の 34%となっている。集客に向けた展示・広報内容の強化・改善が求められるが、類似する他館と比較して集客は良く、次期 5 年間に向けて現状にあった現実的な目標と計画をつくる必要がある。

・多様な主体との連携では、企業との連携数は 41 社と H26 年度から着実に増加し、極めて高い達成率が続いているが、ミュージアムパートナー（273 人）とボランティア（21 人）の登録者数は目標を達成することができなかった。特にボランティアは活動自体が停滞していることから、活動分野と内容を再検討し活性化につなげる必要がある。

・収蔵資料においては、定期的に収蔵庫の点検を実施したことにより、早期に害虫を発見（1 件）し、適切に対処することができた。一方、データベースへの新規登録による公開は極めて少なく（57 件）、年々減少傾向にあり、データベースの閲覧回数（4,347 回）は目標の 9 割だった。登録公開業務の取組が強く求められる。

・調査研究活動では、学芸ゼミを毎月開催し、14 件の成果を論文等で公表できたが、公表件数は年々減少傾向にあり、公表している学芸員にもやや偏りがある。すべての学芸員の研究成果が公表につながる取組が求められる。

・四半期で進捗を管理し 10 件の課題が明らかになり、3 件が解決し、7 件が改善中であるが、1 件（資料のデータベース登録公開）の改善への取組が弱かった。さらに、評価部会からの指摘である評価指標の再考ができなかった。課題がわかっていながら改善が進まない取組があり、職員の意識改善をしなければならない。

・効率的な運営のため、開館時間、レファレンスカウンター業務の廃止、企画展開催回数を少なくし、調査研究や資料整理の時間を確保して基幹業務の充実に努めることができた。